

令和 3 年度 学校自己評価システムシート (県立三郷北高等学校)

目指す学校像	確かな学力のもと、進路指導・生徒指導・部活動指導を3本の柱に、地域に根ざした、生徒の青春の夢実現を目指す学校
--------	--

重点目標	1 学習習慣の確立と授業改善による学力向上を図り、進路希望を実現させる。 2 集団活動をととして規範意識の定着を図り、社会に信頼される人材を育成する。 3 地域に開かれた学校づくりをさらに推進する。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	5名

学 校 自 己 評 価					年度評価(1月13日現在)		
年 度 目 標			年度評価(1月13日現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 授業エキスパートを目指す研究授業発表会の開催等、授業改善の成果が見られ、生徒の学力は向上している。一方、家庭学習時間が1時間以上の割合が31%で大きな変化は見られなかった。 【課題】 基礎力診断テストにおけるDレベルの生徒の底上げとAレベルの生徒を増やす必要がある。	○授業以外の補習等に参加した生徒の割合が増えたか。 ○継続的に生徒の基礎学力を把握し、学力を伸ばさせる体制が確立できたか。	①隙間時間を利用して学習できるよう教材や動画を配信する。 ②早朝や長期休業中、定期考査前に補習等を開講する。 ①授業エキスパートを目指す研究授業発表会を定着させる。 ②基礎力診断テストでの弱点と強みを共有し、授業改善を通じてGTZ(学習到達度)を向上させる。	①ICTを活用した教職員が70%以上となったか。 ②開講した補習等の講座数が30以上となったか。 ①授業研究発表、研究協議等を組織的に行ったか。 ②基礎力診断テスト3教科のGTZ(学習到達度)において、全学年ともにAゾーン5名以上、D3ゾーン20名以下となったか。	①コロナ禍の式典、行事、会議等でICTを使用したため、ほぼ全員の教職員が活用した。 ②開講した補習の講座数は、1年7講座、2年6講座、3年13講座。達成率87%。 ①公開授業週間を2週間を設定し、各教科1～2名が、研究授業を行った。後日研究協議を行い、一人ずつ成果を報告した。 ②4月、9月の順に、1年A(6名、10名)、D3(6名、24名)、2年A(4名、9名)、D3(15名、46名)、達成率63%。	A	教職員がICTを活用することの抵抗感はなくなくなった。作成したコンテンツを授業で活用することには個人差がある。効果的に誰もが使用できるようにすることが次年度の課題である。 放課後や長期休業中の補習体制作りは、ある程度達成できた。次年度は講座数の拡大や、参加人数等で部活動との調整をすることが課題である。 教科や授業担当者によって研究協議の深度に差があった。形式を統一するなど、研究授業の目的を共有することが課題である。 学年が進むほど家庭学習時間が減少する傾向が続いている。進路行事等で意識を高め、適切な課題等により学習意欲を高めることが課題である。
2	【現状】 学校生活に満足している生徒は74%、自覚と誇りを持っている生徒は86%と成果が見られる。しかし、年間遅刻件数が増加傾向(昨年度は1339件)にあり、自転車マナーへの苦情(昨年度は20件)もある。 【課題】 基本的な生活習慣を確立させるとともに、生徒の自主性、主体性を育成するための委員会運営が必要である。	○生徒の基本的な生活習慣を確立させ、自転車マナーへの苦情と遅刻回数を減少させる。 ○生徒が自ら考え、活動できるよう指導・助言ができたか。	①生活委員の生徒による啓発活動を行う。 ②学年・学級担任が学年目標、クラス目標として遅刻防止を掲げる。 ③警察からの交通マナー向上啓発通知を全校生徒に適宜配布する。 ①専門委員会を定期的に開催し、委員会活動に積極的に参加させる。 ②新型コロナウイルス感染防止対策をしっかりと行い、しみの実祭や感恩祭等の行事を成功させる。 ③保健委員の生徒による衛生意識の啓蒙キャンペーンを実施する。 ④校歌を意欲的に歌える生徒を育成する。	①自転車マナーへの苦情件数年間10件以下となったか。 ②遅刻件数年間1,000件以下となったか。 ③学期に2通、年間6通の配布を行ったか。	①自転車マナー苦情件数、年間15件(昨年度20件)。生徒指導部を中心に、学年でも朝と放課後の見廻り指導を行った。 ②遅刻件数年間1,173件(12月20日現在)。 ③警察からの交通マナー向上啓発通知を1学期2通、2学期3通配布。	B	自転車マナー苦情は昨年度より減少したが、10件以下の達成はできなかった。遅刻を減らす方策として、遅刻集計をデジタル化し、月ごとの集計結果を全教員で共有した。次年度も継続予定。今年度は自転車マナー、遅刻ともに改善策を実行した。更に効果があるように次年度も工夫して実施する。
3	【現状】 ホームページのアクセス件数が大幅に増加し、志願倍率1.1倍、三郷市内からの入学者数50%を確保した。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で保護者が参加できる学校行事が中止となった。 【課題】 ホームページ・学校紹介DVDを活用した生徒募集の定着を目指す。また、保護者の満足度向上、さらには地域に開かれた学校づくりに向けた新たな方策が必要である。	○三郷市内51%、近隣3市の中学校を管理職と広報中心に行い、進路希望状況を把握する。また、本校への期待を聞き取り、学校運営に生かす。 ②HP、学校案内、三郷北高NEWS等を通して本校の魅力を視覚的に発信する。また、生徒広報委員会も活用して、積極的かつ効果的に本校の魅力を伝える。 ○新型コロナウイルス感染防止対策を行ないながら、渉外業務を効率的に行う。	①近隣3市の中学校を管理職と広報中心に行い、進路希望状況を把握する。また、本校への期待を聞き取り、学校運営に生かす。 ②HP、学校案内、三郷北高NEWS等を通して本校の魅力を視覚的に発信する。また、生徒広報委員会も活用して、積極的かつ効果的に本校の魅力を伝える。 ①PTA会長、後援会長等との事前打合せを綿密に行い、定例理事会等の情報提供を効率的に短時間で行う。 ②広報部と連携して、対外業務を効率化する。	①近隣3市の中学校訪問ができたか。 ②4回の学校説明会が定員を満了したか。 ③最終倍率が1.1倍を超えたか。 ①新型コロナウイルス感染防止対策を行ないながら、業務を支障なく遂行できたか。 ②広報部と連携することにより、対外業務の効率化および削減ができたか。	①コロナ禍のため、管理職が近隣3市の中学校を訪問した。 ②学校説明会を4回実施することができ、参加者からも良い評価をいただいた。HPの更新を毎週こまめに行い、広報活動を充実させた。 ③最終倍率〇〇倍。(2月18日確定)	A	今年度はおむね満足のいく活動ができたが、次年度は各専門委員会で学年ごとに意見交換をする機会を設けるなど、委員会活動に積極的に関わる雰囲気作りが課題である。また、リーダーの育成も継続的に取り組む。今後は、ウィズコロナの時代に合う新しい活動を考えていくことが課題となる。
					①コロナ禍のため保護者が参加できる行事が中止となり、PTA・後援会理事会も審議の機会が増えた。しかし、PTA会長、後援会長と連携して効率的に業務を行った。 ②コロナ禍の制限で、渉外部と広報部の連携はできなかった。	A	HPの更新は今年度同様こまめに行っていく。また、学校の魅力(特徴)をどのように伝えていくか、ICTも含めて考えることが課題である。 次年度は渉外部と広報部が統合するため、業務の効率化が課題となる。重複するものを整理して、業務量の削減を工夫する。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日 令和4年2月10日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>アンケートの「進学希望」80%以上、「授業に満足」70%以上という高い結果により、おおむね目標達成と考えられる。生徒一人一人のモチベーションを高めたり、家庭学習に向かう意欲を育てたりすることが、最終的に生徒の進路実現につながることを期待する。家庭学習時間(特に学年が進むほど減少傾向)は課題である。今後は補習出席の優先日や参加者を増やす方策なども考える必要がある。学校で補習を開講してもらえることがありがたい。</p> <p>コロナという社会的な外部要因により、ICTを活用した新たな教育学習体制の確立が図られ、それらが教職員や生徒に定着したことは、将来的な学習習慣や授業改善方法に大きなプラス要因となったと思われる。新たな教育方法として将来的にも継続してほしい。進路希望の多様性と学力格差を克服し、生徒一人一人の進路希望に応えられるよう、引き続き熱い進路指導をお願いしたい。</p> <p>「生徒が自ら考え、活動する」ように育てることは大変根気が要る。行事や校則など、生徒に決めさせる場面を多くする必要がある。</p> <p>社会的なモラルや協調性、自主性や感受性を育成するためには学校が主宰する集団活動は重要な機会である。「コロナ禍でも出来ること」を教員と生徒が一緒に考え、生徒が得た達成感をどのように人材育成に繋げていくかが大切である。集団行動を通じて、個性を伸ばしていけるような教育風土づくりが実現できると良い。</p> <p>自転車マナーや遅刻件数に減少傾向が見られるのは先生方の指導の賜物である。今後一人一人が無事故無違反を目指し、生徒同士が声掛けもするすることも必要である。校則を守る、清掃活動にきちんと取り組むという生徒の割合も多く、人材育成の素地がしっかりと印象を持った。部活動の加入率が高いことにも驚いた。引き続き指導をお願いしたい。</p> <p>三北生として自覚と誇りを持っていると感じる。校外での行動や遅刻を減らすことについては、学校と家庭で連携を図り、子ども達に伝えていった方が良い。</p> <p>コロナ禍にあり、保護者や地域住民に生徒の実際の活動の様子を見せるためにはホームページ更新が大切な一つの手段と考えるが、積極的な情報発信に努め、成果が出ていることは素晴らしい。</p> <p>行事が一般公開出来なかった分、ホームページで情報を発信し続けている。アクセス数に関しては、更新や見易い等を改良したらもっと良くなると思う。学校行事だけでなく、「桜が咲いた」だけでもよいと思うので、少しずつでも更新をお願いしたい。</p> <p>さらに学校の魅力を発信するだけでなく地域の中でどのように捉えられているか、活動を通じて双方のコミュニケーションが機能しているかを充分検証した上で課題を解決することでより良い学校づくりに作用すると考える。</p>	